

旧末永家住宅修復事業

問 財源及び維持管理について

答 今回の修復事業は市の歴史的遺産である貴重な文化財を修復し、保全することを基本として取り組むもので、事業費の内訳は、土地取得費5,380万円、旧主屋並びに百帖座敷の改修費4,000万円、外構工事費1,000万円、その他実施設計費などが49万8,000円で、合計約1億880万円となり、これらの財源については、地域の活性化・経済危機対策臨時交付金を活用するものです。

修復後の維持管理については、同じく国の登録有形文化財となっている旧加藤家住宅主屋のあるお殿様公園と同様に、地域の皆様の



坂本龍馬宿泊地（長浜）

ご理解とご協力をいただきながら、経済的かつ効率的な方法により管理運営を図る考えであり、長浜地域の歴史遺産の保存活動に努められている長浜歴史遺産保存会と協議の上、管理方法などを決定したいと考えています。

柚木地区の浸水被害

問 土地区画整理事業実施地区の内水対策について

答 当地区は、肱川の洪水時には高富川に逆流し、

浸水、冠水を繰り返していましたが、大洲道路整備事業や高富川改修事業が実施されることになったことから、健全な市街地の造成を図ることとして土地区画整理事業を実施したものです。水害については、肱川本川の水位が非常に高く、本川からの逆流により区画整理以前の標高に近かった区域が冠水したもので、再度被災箇所の水害対策として国による如法寺地区の河川改修、県による樋門工事、大洲市による止水壁等を役割分担しながら実施しており、

住宅地が密集する柚木地区



既往水位に対する外水被害はないものと考えています。

また、内水対策については、肱川流域内には柚木地区を初め内水対策の必要な箇所が多数あることから、はんらん地区の浸水危険度、被害の状況や土地利用状況などを把握し、排水ポンプ車の要請などについて河川管理者とも調整しながら対応していきたいと考えています。

木材加工流通施設

問 施設整備計画の構想及び雇用について

答 肱川流域の5市町で組織構成する肱川流域林業活性化センターでは、川上から原木の安定供給を図り、川下においては人工乾燥機等を導入し、需要先の求める品質、数量の確保を行い、製材品の安定供給を目指す肱川流域地域材生産物流拠点整備構想を策定したところであり、この構想に基づき、大洲市内外の5社の製材業者で構成する八幡浜官材協同組合が、大川地区に製材乾燥施設等を整備し、徹底したコスト削減を図り、肱川流域のヒノキ材を主にした製品を都市部へ供給する計画で製材施設を建設するものです。

この木材加工流通施設は、総事業費10億6,600万円で、国の森林整備加速化・林業再生事業を導入して整備を図るもので、開設3年後の目標は、原木消費量6万立方メートル、売上高19億5,600万円、従業員数45人の計画で、新設、運営に当たり必要な人員として、市内十数名の新規雇用を見込んでいます。

また、原木調達として大洲市内においても木材の伐

採、搬出に係る林業雇用などの増加も期待しているところです。



八幡浜官材協同組合の現施設（建設農林委員会管内視察）

廃食用油のリサイクル

問 取り組み状況について

答 廃食用油のリサイクルについては、県の補助制度を利用して、市内全域で回収を始めることとした。